

4.

1. 黄海北部の二点に於ける潮流測定結果の分解。^(原著) 初鷹丸及飛拿丸の各1晝夜に亘る潮流測定結果を吟味する。北方分速及東方分速を半日及1日周期のものに分解し且或假定を設けて潮流の調和常数を算出した。潮流の特性は右方に廻轉すること、半日週潮流の hodograph は殆ど円に海面から深さを増すに従つて流速は小となり、流向は右方に偏する。内部摩擦に就て吟味したか北方と東方とで摩擦に大なる差違があることを見出した。渦動粘性は深さに依つて異なり 300—2600 cgs で海底から海面に向つて増大する傾向がある。

2. Long Island Sound & Block Island Sound の潮汐及潮流 (紹介)。 U. S. Coast and Geodetic Survey で行つた観測を整理したものである。観測は数回に亘つて行はれたが特に 1929 年及 1930 年の夏に大規模に潮流を測定した。潮流測点は約 120 点で数日乃至数ヶ月に亘つて行はれた。潮流は約 300 点で数日測定された。特に 3 燈船では 1913 年 1—3 月連続測定せられた潮流の調和常数が算出された。本書は 1922 年に主要港湾の潮流測量が大規模に施行さ

Nº

此ニ以来第8回の報告である。如何ニ潮流及潮流が米國で重視され居るかを紹介する。

以上 小倉伸吉